

「コンプライアンスリスクと品質検査技術の重要性」

JABM副会長
TDK株式会社
諏訪 建一郎



2023年6月「日本ボンド磁性材料協会」の総会において、副会長を仰せつかった諏訪建一郎と申します。母校明治大学では山元洋先生のご指導の下、フェライト磁石の研究に携わり、以後卒業後もTDK株式会社にて計約40年、人生の2/3を磁石に捧げ続けた根っからの磁石屋です。人生終盤戦に近づきましたが、今後も本協会を軸に世界の磁石発展に貢献し続けて参りますので、会員各位のご支援、ご指導よろしく申し上げます。

近年、どの業界でも高いコンプライアンス意識が求められておりますが、テレビやネットなどで、コンプライアンス違反に関するニュースを目にする機会が増え、特に関心が高まっています。長年にわたり製造業に携わってきた私にとっても、「コンプライアンスリスク」など、若いころにはほとんど耳にしなかった用語が頻りに耳に入るようになったのは、新たな現象です。

TDK株式会社では、取締役会の決議により、執行役員の中からグローバル・チーフ・コンプライアンス・オフィサーを任命し、コンプライアンス委員会を運営しています。全従業員がコンプライアンスに即した行動をとるよう、違反がないよう、日々教育と指導が行われています。¹⁾

では法令順守の意味である「コンプライアンス」という言葉が日本で一般的になり始めたのはいつで、現在ではどの程度認知されているのでしょうか。

コンプライアンスという言葉が日本で一般的になったのは、1990年代後半から2000年代初頭とされています。この時期、企業や組織はグローバル化やデジタル化に対応するため、また企業の不祥事が相次いだことから、コンプライアンスの重要性が認識されるようになりました。特に、2006年に施行された会社法により、大企業は「内部統制システムの構築」を義務付けられ、これがコンプライアンスの普及に大きく寄与しました。

コンプライアンスの意味については、「法令遵守」だけでなく、「倫理規範や社会的な規範に従い、公正・公平に業務を行う」ことを指します。製造業におけるコンプライアンスを考えると、製造業は多種多様な製品やサービスを提供する産業であり、経済や社会に大きな影響を与えます。そのため、コンプライアンスは「品質、安全性、環境、人権などに関する各種の法律、規制、基準、ガイドラインを遵守すること」を意味すると言えるでしょう。

このようにコンプライアンスは、製造業にとって重要な課題であり、多くの企業がコンプライアンス研修等教育に注力しています。企業はコンプライアンスを遵守することで、顧客や社会の信頼や満足度を高めることができますし、企業は法的なリスクや罰則、イメージの損失や競争力の低下などのリスクを回避することができます。しかしながら、近年、品質や安全性を保障する検査でコンプライアンス違反が目立ってきました。

なぜ、多くの企業がコンプライアンス教育を強化しているのにも関わらずコンプライアンス違反はなくなるのでしょうか。これらの行為は、製造業の検査不正と呼ばれ、自社や第三者による製品やサービスの検査や試験において、データや記録を改ざん、隠蔽、捏造を行うことですが、検査不

正が生じる原因や動機は様々あるかと思えます。

例えば、以下のようなものが考えられます。

- 製品の競争力を高めるため。
- 顧客に製品を届けることを優先するため。
- 製造のコストや時間を削減するため。

以上は、「会社に損害を与えないため」。つまり「会社のために」、と考へての事であり、検査担当者だけでなく組織単位での同質性、同調圧力など、長年培われた組織風土と考えられます。

一方、検査技術自体に不備があり、その結果、製品検査が正確に行われていないというケースも起こり得ます。つまり検査方法や検査機器についての理解が不足しているために、一貫した正確な数値が得られないという状況はどうでしょうか。本来ならば製品は合格するはずの製品が、不合格と判断されてしまう、もしくはその逆という事態です。このような不完全な検査技術が不良の見逃しや、さらに不正につながる可能性も考えられます。

製造業において「検査は技術的な側面がなく、粛々と進行することができるもの」という認識でおられる方もおられるのではないのでしょうか。しかし長年製造業に携わってきた中で、検査機器は経時的に変化することを経験してきました。また検査機器メーカーも、完全な納入時の状態に戻すことは困難な場合もありました。しかし知識を持ってこの変化に対応することで、再現性のあるデータを得ることができるようになることもわかりました。

TDK株式会社の磁石事業では、検査能力強化を目的に、所有する磁気計測装置の動作及び変動メカニズムの解明、及び日々の装置管理方法の確立を行い、これら手法を用いた安定した信頼性の高い検査を実施しております。

検査は、製造業界において重要な課題であり、検査技術の揺らぎは製品の品質や安全性に直接的な影響を及ぼします。検査不正を防ぐためには、これらコンプライアンスリスクを強く認識させることが必要であり、組織文化と従業員の意識改革を進めることが求められます。と同時に、検査手段の再考と、検査装置に関する技術的知識の向上や装置管理の強化も重要な要素となります。これらの取り組みが、検査不正の防止に寄与すると考えています。

私たちの協会では会員の皆様の協力を得て、検査技術の向上とコンプライアンスの遵守に向けた活動を推進しています。皆様のお力添えのほどよろしくお願いいたします。

参考文献

- 1) TDK HP <https://www.tdk.com/ja/sustainability2023/governance/compliance>